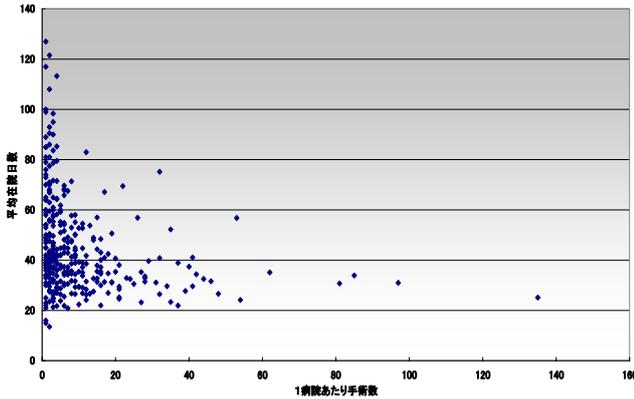


# プロセスについて1-②

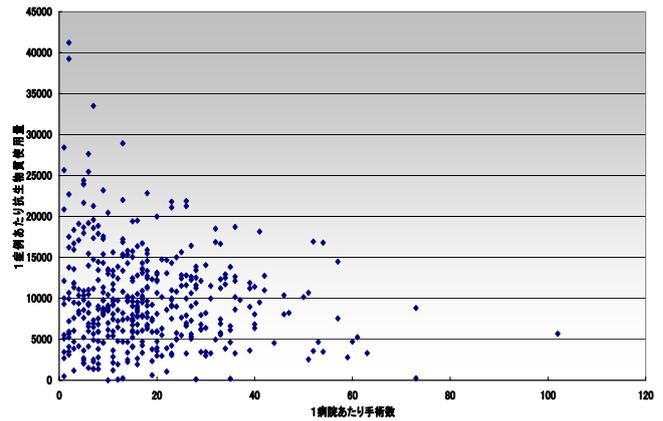
## 【これまでの検討】

- 例えば、手術症例数が多い場合に平均在院日数や抗生剤使用量が一定に集約する(標準化・効率化)傾向が見られている。症例数に応じて標準化・効率化が進んでいるのはいか。

手術数と平均在院日数(大腿骨頭再置換術等手術処置等1なし)



手術数と抗生物質使用量(虫垂炎単純切除術・合併症なし)



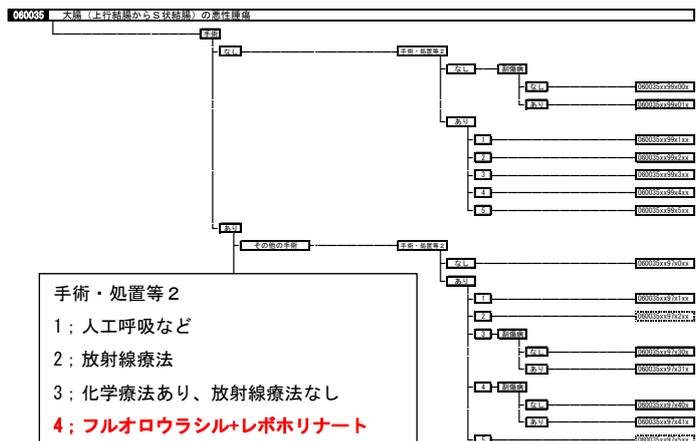
出典 平成20年10月3日 DPC評価分科会 松田研究班提出資料より抜粋

# プロセスについて1-③

## 【これまでの検討】

- 平成20年度より関係学会等が認めている主要な標準レジメンのうち、特に点数のばらつきの大きい短期間の入院に関して点数の違いが明らかなレジメンについては新たに分岐を設定していることを踏まえ、標準レジメンや診療ガイドラインに基づく診療に対する評価について検討できないか。

順位	症例数	割合	在院日数平均	レジメン
1	13913	54.4%	8.5	オキサリプラチン+フルオロウラシル
2	6150	24.1%	6.4	フルオロウラシル+塩酸イリノテカン
3	1392	5.4%	32.1	テガフル・ウラシル配合
4	1221	4.8%	15.2	フルオロウラシル
5	637	2.5%	34.3	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合
6	264	1.0%	20.0	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合+塩酸イリノテカン
7	205	0.8%	11.7	塩酸イリノテカン
8	114	0.4%	5.5	オキサリプラチン
9	87	0.3%	8.6	オキサリプラチン+かわらたけ多糖体製剤+フルオロウラシル
10	85	0.3%	36.7	オキサリプラチン+フルオロウラシル+塩酸イリノテカン



- 手術・処置等2
- 1; 人工呼吸など
  - 2; 放射線療法
  - 3; 化学療法あり、放射線療法なし
  - 4; フルオロウラシル+レボホリナート  
カルシウム+オキサリプラチンあり
  - 5; ペバシズマブ

## プロセスについて2-①

- 標準化や効率化が認められる場合、症例数に応じた評価を行うべきか。また、仮に評価するのであれば、評価の在り方についてどのように考えるか。

### <メリット>

- ・ 標準的・効率的な医療を評価できるのではないか。

### <課題>

- ・ 症例数が少なくても標準的・効率的な医療を提供している場合の評価についてはどのように考えるのか。
- ・ 症例数とアウトカムの関係についての検証が必要ではないか。
- ・ 評価することにより、不必要な医療を助長する恐れがあるのではないか。

25

## プロセスについて2-②

- 標準レジメンや診療ガイドライン等に沿った標準的医療が提供される患者の割合に応じた評価を行うべきか。また、仮に評価するのであれば、評価の在り方についてどのように考えるか。

### <メリット>

- ・ 標準レジメンや診療ガイドライン等により、治療効果等の裏付けのある標準的治療の促進が期待されるのではないか。

### <課題>

- ・ 評価の対象とするべき標準レジメンや診療ガイドライン等の基準についてどのように考えるのか。

26